

地域と大学

—— 地域との共生における大学教職員の実践 ——

本シンポジウムでは、大学と地域の共生の基に、大学は地域のためにどうあるべきかを考えたい。さまざまな立場で活躍されている講演者から、地域と大学の共生のテーマについて講演していただく。大学・地域連携に取り組まれてきたことをご紹介いただき、これからの大学を担う教職員に向けてメッセージをいただく。我々大学の教職員が行うべきことは何か、また大学の教職員の活動は今後どのように広げていくことができるのか、参加者のみなさまからのご意見やご質問もいただいて、討論したい。

＋シンポジスト



大森 昭生氏 共愛学園前橋国際大学 学長

経歴

1968年宮城県仙台市生まれ。東北学院大学大学院博士課程在学中の1996年に前身の共愛学園女子短期大学に着任、国際社会学部長、副学長等を経て、2016年より現職。2021年より短大部学長兼務。専門は米文学・男女共同参画。

全国の学長が目にする学長ランキング3年連続1位(大学は教育で注目4位)、「大学ランキング」。群馬県総合表彰(男女共同参画分野)。

主な活動、著書

中教審では教育振興基本計画部会、教学マネジメント特別委員会、質保証システム部会等の委員を歴任し、現在は大学分科会委員並びに高等教育の在り方に関する特別部会副会長を務める。内閣官房では、地方創生に資する魅力ある地方大学の実現に向けた検討会議、地方大学・産業創生法施行状況検討に係る有識者会議の委員として地方創生を議論。県では教育振興基本計画策定懇談会座長、青少年健全育成審議会会長など若者の学びにむき合い、市では県都まえばし創成本部有識者会議座長、デジタル田園都市国家構想アーキテクト統括など街づくりに注力している。

主な著書に『アーネスト・ヘミングウェイ—21世紀から読む作家の地平』(共著・編集委員長)、『ヘミングウェイ大事典』(共編著)、『今選ぶなら、地方小規模私立大学! ~偏差値による進路選択からの脱却~』(共著)、『地域に愛される大学のすすめ』(インタビュー)。



森 正美氏 京都文教大学 学長、総合社会学部実践社会学科 教授

経歴

1966年三重県伊勢市生まれ。専門は文化人類学、東南アジア(フィリピン)研究。筑波大学大学院地域研究研究科修了、在学中にフィリピン大学留学。筑波大学大学院歴史人類学研究科博士課程単位取得退学後、1997年に京都文教大学に着任。2022年4月より学長。

京都府、宇治市、京都市などの行政委員等多数歴任。2021年4月より(一社)アーバンデザインセンター宇治代表も務める。

主な活動、著書

京都文教大学に着任後、大学所在の宇治市での地蔵盆調査、宇治橋通り商店街などでのイベント企画を皮切りに、文化人類学的フィールドワーク手法を生かした地域協働型PBLを展開。あらゆる立場の垣根を越えてつながり、力を合わせることを目指して、現在も活動中。本シンポジウム関連著書は、『職場・学校で活かす現場グラフィック—ダイバーシティ時代の可能性をひらくために』(共著) 明石書店(2020)『実践! 防災と協働のまちづくり—住民・企業・行政・大学で地域をつなぐ』(編著) ミネルヴァ書房(2020)など。



三木 仁史氏 元京都市大学政策部長、特定非営利活動法人グローバル人材開発センター 理事、ライフイズテック株式会社 事業開発事業部

経歴

1987年大阪生まれ。2010年文部科学省入省。私学行政課、高等教育政策室、高校修学支援室などを経て、2021年7月から2023年3月まで京都市大学政策部長へ出向。文部科学省に帰任後、2024年4月に退職し、現在はライフイズテック株式会社で、イノベーション人材の育成に従事。同年6月から特定非営利活動法人グローバル人材開発センター理事も兼務。

主な活動、著書

文部科学省では、入省直後に学校法人行政に従事。その後、第2期教育振興基本計画の策定や、幼保一体化、専門職大学制度の創設を経験。私立高校授業料の実質無償化など政治的な調整が必要なプロジェクト、環境エネルギー分野の研究開発行政などにも携わる。京都市の大学政策部長に出向時には、学生のコロナワクチン接種機会の確保や、大学・学生と、地域・地域企業をつなげる連携事業による京都ならではのまちづくりを進めた。これら経験を基に、第21回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラムシンポジウム「地域特性を活かした、大学コンソーシアムへの期待」(2024年9月)や第5回大学コンソーシアム八王子FD・SDフォーラム「大学のキャリア教育・職業教育を今後どう考えるか」(2015年8月)などにも登壇している。

＋コーディネーター



白鳥 秀卓氏 京都産業大学 生命科学部 教授

経歴

静岡県生まれ。1998年東京農工大学農学部獣医学科卒業。2002年大阪大学大学院医学系研究科博士課程修了。博士(医学)。2003年日本学術振興会特別研究員。2004年大阪大学生命機能研究科助手、2007年同助教授、2008年同准教授。2016年京都産業大学総合生命科学部教授、2019年京都産業大学生命科学部教授。2021年10月から2024年9月まで京都産業大学教育支援研究開発センター副センター長を兼務。

主な活動、著書

2021年10月から大学コンソーシアム京都FDフォーラム企画検討委員会委員となり、2022年度は同企画検討委員会の委員長を務めた。本年度からFD・SDフォーラムとしてリニューアルした本フォーラムの企画検討委員会委員として活動してきた。

専門は生命科学、とくに発生生物学。理学情報ジャーナル2024年9月号「解剖学的視点からみた非対称性の意義」など。